

令和7年度 美里町立美里中学校 全国学力・学習状況調査 (D)調査分析

教科に関する調査結果から

	国語	算数・数学	理科
全国平均	54.3 %	48.3 %	503
埼玉県平均	55 %	50 %	502
本校平均	51 %	44 %	489

○よい傾向のもの

▲改善の必要があるもの⇒改善案

国語	○書くこと：ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択すること ○話すこと・聞くこと：内容を分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書こと ▲言葉の特徴や使い方：「しきりと」の意味として適切なものを選択する ⇒文脈に即した意味を確認する必要がある。説明文や物語文を扱う場合は、本文を通読後に意味調べをして、文中でどう使われているのかを確認する場面を設ける。 ▲言葉の特徴や使い方：変換した漢字として適切なものを選択する。 ⇒導入時の漢字練習と小テスト（週1回）に加え、同音同訓異義語を取り上げて練習する場面を設ける。定期テストにも出題し、定着状況を見取る。
数学	○1から9までの数の中から素数を全て選ぶこと。 ○△ABCにおいて、内角と外角の性質を利用し、角度の大きさも求めること。 ▲数量の関係を、文字式を使って表すこと。 ⇒1学年2章「文字式」の内容を、定期的な復習を強化する。文字式は常に使うため、既習事項を確認しながら授業を進める（全単元）。また、単元テストや定期テストで問題を出題定着状況を見取る。 ▲図形の定義を利用し、合同や相似、図形の性質を証明すること。 ⇒説明の仕方を全学年共通のパターンとして指導し、基本的な説明の手順を繰り返し触れる頻度を増やす（全学年、説明する問題）。また、理解度に応じた説明の問題演習行うなど生徒の実態に応じた自由進度学習を実施する（全学年）。
理科	○「課題を作成する」、「探究をふりかえる」こと。 ○全体的に記述問題に対しての無解答率が低く、正答率が県・全国よりも高かった。 ▲原子の記号（知識の習熟） ⇒定期的に小テストを実施し、知識・技能の習得を見とり、繰り返し指導する。 ▲資料を読みとり、求められている答えを選択する。 ⇒問題文を読み取り、題意を自分のことばに直すなど、問題文を要約する活動を取り入れる。
児童生徒に対する 質問紙調査から	○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか 【県平均との差+10.5ポイント 全国平均との差+10.9ポイント】 ○1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか【県平均との差+1.7ポイント 全国平均との差+5.2ポイント】 ▲1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか【県平均との差-7.6ポイント 全国平均との差-0.6ポイント】 ⇒話し方、伝え方の指導に加えて、聞き方（聴き方）についても指導をし、自信をもって自分の考えを伝えられるような場を提供する。 ▲授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか【県平均との差-4ポイント 全国平均との差-0.8ポイント】 ⇒基礎的な知識の確実な定着を図るため、「教科書【を】教える」から、「教科書【で】教える」へ授業を転換する。また、教科横断的な視点を持ち、各教科が横でつながっていると生徒が感じられるような指導も追加して実施する。

学校から

「知識・技能」の確実な定着を図るために、ワークや小テストなどの反復学習を積極的に取り入れ、定期テストを通じて理解度を丁寧に把握する取り組みを、これまで以上に強化してまいります。さらに、習得した知識を「活用できる力」へと高めることを目指し、授業では教師が問いかけを通じて生徒の思考を深める場面を多く設けます。また、探究学習では、生徒自身が課題を見つけ、問いを立てて学びを進める活動を充実させていきます。そのために、教師は一方的に話すのではなく、ICTの活用も含め、生徒の考える力を引き出すファシリテーターとしての役割を重視します。生徒同士が対話し、協働して学びを深める授業づくりを進めてまいります。